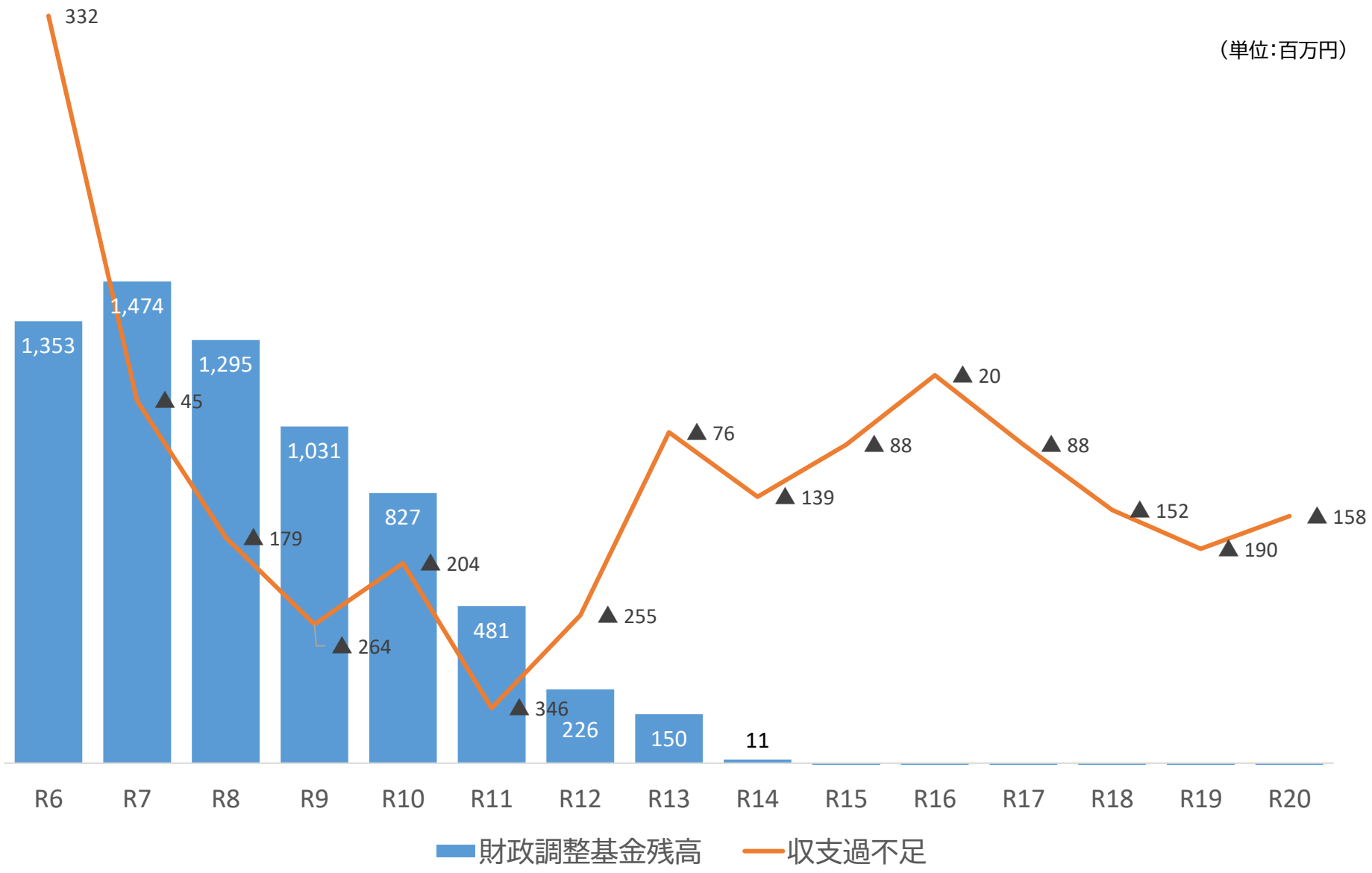
千早赤阪村の中長期財政シミュレーション

- 本シミュレーションでは、令和5年度決算をベースに15年間の推計を実施
- 推計にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計や「中長期の経済財政に関する試算」（内閣府）で示された経済成長率など現時点で見込むことができる条件を前提に推計
- なお、本推計は不確定要素を多く含んでおり、将来に向かって相当の幅をもってみていただく必要がある

1. 収支と基金残高の見通し



2. シミュレーション結果の詳細

（単位:百万円）

区　分		R5(決算)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
歳　入　合　計		4,063	3,700	4,668	3,738	3,788	3,755	3,792	3,734	3,689	3,702	3,696	3,694	3,693	3,674	3,677	3,668
	村税	465	437	447	439	425	418	412	398	392	386	373	367	361	354	348	343
	地方交付税(臨財債含む)	1,882	1,873	1,872	1,884	1,902	1,908	1,914	1,925	1,931	1,937	1,948	1,954	1,959	1,966	1,971	1,977
	交付金・地方譲与税等	189	187	190	191	190	188	187	186	184	183	181	180	177	175	174	172
	国・府支出金	687	746	824	849	879	873	887	877	866	874	874	872	877	881	885	883
	地方債	524	120	312	217	234	210	234	190	158	164	162	163	163	162	168	162
	諸収入	109	132	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133	131	131	131	131
	繰越金、繰入金	207	205	890	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	5	0	0
歳　出　合　計		3,822	3,368	4,713	3,917	4,052	3,959	4,138	3,989	3,765	3,841	3,784	3,714	3,781	3,826	3,867	3,826
	人件費	738	754	819	787	816	801	896	903	823	896	882	823	875	904	912	876
	扶助費	384	405	432	457	485	485	485	485	485	485	485	485	485	485	485	485
	公債費	363	379	378	397	419	401	390	382	342	319	275	257	266	276	285	294
	建設事業費(災害復旧含む)	589	115	732	535	575	508	594	439	326	346	340	341	341	340	360	340
	物件費	669	577	1,143	694	708	714	721	727	734	741	748	754	761	768	775	782
	補助費等	410	564	564	567	569	572	575	578	581	584	588	591	594	597	600	603
	繰出金	469	473	476	477	477	475	474	472	471	467	463	460	456	453	447	443
	積立金等	200	101	169	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
収　支　過　不　足			332	▲45	▲179	▲264	▲204	▲346	▲255	▲76	▲139	▲88	▲20	▲88	▲152	▲190	▲158
財　政　調　整　基　金　残　高		1,255	1,353	1,474	1,295	1,031	827	481	226	150	11	▲77	▲97	▲185	▲337	▲527	▲685

※歳入の「繰入金」欄について、令和6年度以降は財政調整基金からの繰入れは含んでいない

3. 推計方法

	主な費目	考え方
歳入	村税	人口・経済成長率と連動
	地方交付税	直近の実績に各年度の扶助費の増加分を加算
	国・府支出金	歳出と連動
	地方債	歳出と連動
	交付金・譲与税等、諸収入（使用料・手数料、財産収入、寄附金など）	直近の実績を据え置き ※地方消費税交付金、法人事業税交付金のみ経済成長率と連動
	繰入金	特目基金からの繰入金を ☑ 見込む ☐ 見込まない

	主な費目	考え方
歳出	人件費	直近の実績に物価上昇の影響を反映
	扶助費	直近の実績の伸びを反映
	補助費等、物件費	直近の実績の伸び、物価上昇の影響を反映
	建設事業費	次のいずれかによる ☐ 直近の実績に物価上昇率を乗じた額をベースとし、大規模事業を個別に積み上げる ☑ 団体の計画値を用いる
	公債費	既発分は町村による推計 新発分は歳入の地方債と連動
	繰出金	国保特会と後期高齢特会は人口と連動 介護特会は府全体の介護給付費総額の推計値と連動 公営企業は直近の実績を据え置き